

令和3年度 3学期始業式校長あいさつ

皆さん、少し遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。

今朝、皆さんが元気に登校してくる姿を見て安心しました。(中略) 現在、オミクロン株を含め新規感染が急速に拡大しています。今まで以上に、マスクの常時着用や手指消毒、昼食時の黙食等、徹底してください。特に3年生は今週末に大学入学共通テストを控えています。3年生はもちろん、私たち全員で協力してよい環境を作り、3年生をサポートしていきましょう。よろしく願います。

さて、新年の始まりにあたり、今日は少し夢のある話をしたいと思います。宇宙開発に関する話です。歴史的に見ると、宇宙開発は大国の軍備拡張競争と表裏一体で、多くの問題点が指摘されてきました。しかし一方で、その技術は民間に転用され、インターネットやGPS、天気予報、車の自動運転など私たちの暮らしにたくさんの恩恵をもたらしてきました。そこで、今日は宇宙空間の平和的な利用を前提として話を進めたいと思います。

最近、民間の宇宙開発ベンチャー企業によって、民間人が宇宙旅行を体験するなど、宇宙への関心が高まっています。そのような中、昨年11月、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が、13年ぶりに新たな宇宙飛行士の候補者を募集すると発表しました。活躍の舞台は3つ予定されています。ISS(国際宇宙ステーション)での活動、2020年代半ばに建設が始まる月周回有人拠点「ゲートウェイ」への搭乗、月面での活動です。面白いのはその募集内容です。前回までは理学・工学など自然科学系の4年制大学卒業以上で3年以上の実務経験が必要でしたが、今回は学歴不問、年齢制限なし、3年以上の実務経験、つまり社会人経験があれば、理系・文系に関わらず誰でも応募することができます。もちろん、合格するのは超難関であることに変わりはありませんが、JAXAは、これほど条件を緩和した宇宙飛行士募集は「世界初」だと説明しています。

では、JAXAはどんな人物を求めているのでしょうか。募集要項には将来の宇宙飛行士に求める人物像が3つ挙げられています。一つは多国籍なチームの中で多様性を尊重し、協調性とリーダーシップがあること、二つめは宇宙という極限環境での活動においても柔軟な思考と着眼点を持ち、的確な判断・行動ができること、三つめは経験や成果を世界中の人々と共有する表現力・発信力があることです。実は、これらの将来の宇宙飛行士に求められている能力は、私たちが皆さんに暇高の3年間で磨いてほしいと思っている能力そのものです。実際のところ、暇高での高校生活も国際共同事業である宇宙開発と同じで、暇高生全員による共同作業です。授業も、部活動も、行事も、課題研究もチーム戦です。皆さんには、暇高というチームの中で、多様性の尊重や協調性を大切にしながら、自己管理能力を高め、柔軟な思考力や的確な判断力、コミュニケーション能力を磨いてほしいのです。そして、その過程を通じて、1人ひとりが成長し、素晴らしいクラスやクラブ、行事を作り上げてほしいと願っています。

先日、募集要項を読んで将来の宇宙飛行士をめざしている女子高校生の特集をテレビで観ました。その時、私は、将来、暇高の卒業生が日本で初めて月面に立つ、そんな日が来るんじゃないかと夢を膨らませました。皆さんには無限の可能性が 있습니다。その光る才能を将来社会のために活かしてください。

最後に、1, 2年生の皆さん、1年のまとめとなる3学期を来年度に繋がる充実したものにしてください。そして、3年生の皆さん、「思うは招く」、目標を実現する自分の姿をしっかりと思い描いて、自分を信じて、大学入学共通テストに臨んでください。期待しています。